

# 社会教育委員等研修会報告

新潟市社会教育委員 杉山節子

## 1. 研修Ⅰ 講義(10:30~12:00)

会場：於. 長岡市中央公民館

テーマ：「社会教育委員の役割と全国大会招致の意義」

講師：(一社)全国社会教育委員連合 前常任理事 坂本登氏

研修Ⅰでは、1)社会教育委員の制度的沿革や 2)その社会的意義、そして 3)新潟県に全国大会を招致することの意味についての講義が行われた。

まず1)を通して、社会教育委員の制度は、昭和20年10月に発足して以来、重要な社会的役割を果たしながら現在に至っている制度であることを改めて認識し、その設置目的を踏まえ、その社会的な役割を果たすために全力で活動することが大切であると痛感した。

また、2)社会教育委員の意義については、委員一人一人が一つの機関であるという性格を持っており、自分の考えを提言することができることが大きな特色であることを学んだ。例えば、教育委員会に出席して自分の意見を述べることができ、また行政と社会教育委員とが連携し、コラボして活動することが大切であること学んだ。これが、延いては「社会教育委員の『見える化』」につながる。さらに、社会教育計画を策定し、社会教育の振興を図ることに努めることの大切さを痛感した。

このような条件の中で、社会教育委員の全国大会を新潟で開催することは、新潟の活動を全国にPRする絶好の機会であり、積極的に推進していきたいと考えた。

## 2. 研修Ⅱ 事例発表(13:00~13:30)

テーマ：「出雲崎町の社会教育について」

講師：出雲崎町 社会教育委員長 磯部友記雄氏

続いて、研修Ⅱとして、出雲崎町の社会教育の実践が報告された。同町では、昭和62年以来毎年、街並みスケッチ画合宿を実施し、街並み保存活動の一環として、東京芸術大学の学生を招待している。そのスケッチ画集は第3版にもなり、一般に販売もしている。

また、郷土学習として、小学校・中学校の9年間で「良寛学習」を実施し、修了証書を授与している。さらに、地域の社会人を対象にとして「出雲崎総合大学」を実施し、生涯学習の一環として幅広い講座を用意していることが報告された。この講座では、社会教育委員が授業を担当するなどしており、町全体で社会教育に取り組み、かつ社会教育委員が主体性を発揮して行っている素晴らしい取り組みであると感じた。

引き続き、「どんな全国大会を新潟から発信できるのか」をテーマとするワークショップ「ワールドカフェ」が行われた。4~5人の小グループに分かれて委員同士が気軽に情報を交換する場となり、委員間の交流を深めることができた。新潟大会は、新潟らしい特色を出そうということで活発な意見が交わされ、関係する遺跡の「日本遺産」認定という文化財行政上の快挙も受けて、「北前船がつなぐひと・もの・歴史」という大きなテーマのもと、新潟らしい食や芸能を披露するプランの大枠が出来上がるまで意見を交換することができた。

委員同士が活発に意見を交換して、豊かなアイデアを出し合う非常に有意義な研修であった。